

28P-am02

医療系他学部と連携した薬学生低学年海外医療視察研修とその教育効果について
○西丸 宏¹, 弓削田 祥子¹, 中田 庸介¹, 加瀬 義夫¹ (¹武蔵野大薬学キャリア教育研究セ)

【目的】改定薬学教育モデル・コアカリキュラムには「選択的な大学独自のカリキュラムの設定」の一例として海外派遣研修が挙げられている。本学ではフィールド・スタディーズの一環として医療系学部（薬・看・社会福祉）の主に1年生を対象とした海外医療視察研修を毎年実施している。今回本学の研修について、学生レポートのテキストマイニングによる教育効果についての検討結果を含めて報告する。

【方法】研修場所はアメリカ・ロサンゼルスを選定し、病院・薬局・福祉施設等を訪問した（5泊7日）。2016年度は薬学生8名を含む34名、2017年度は薬学生12名を含む46名が参加した。毎日の研修後に学生にレポートを提出させ、その記述についてテキストマイニングによる解析を行った。

【結果】テキストマイニングに基づき頻出ワードをカテゴリー化したところ、研修内容に関わるワードである「学ぶ・知る」が最も多かった他、日米間の違い・医療・英語に関するワードが多く見られた。

【考察】解析の結果、本研修は教育プログラムとして、また参加者のキャリア意識の向上にも効果がある可能性が示唆された。また学生レポートのテキストマイニングによる解析は、研修成果の評価法の一つとして有効であると考えられる。今後、参加者の学修状況や就職動向も含めた継続的な調査を行い、医療系海外研修の質的向上に繋げていくことを検討している。